

今回のテーマは「にほんのぎょうじしょく」の中から
「かがみもち」をピックアップ!



- お正月飾りの中でも代表的な「鏡餅」。飾り方や内容は地域によって色々あるようですが、基本の物を挙げてみました。それぞれの飾りにも意味があります。説明する際のご参考にしてください。

- 飾扇：末広ともいう。長く繁栄していくことを願う
- だいたい（橙）：子孫が代々（=橙）栄えるように
- 四手（しで）：御幣（ごへい）とも言う。四方に反映するように。紅白なのは、魔よけの意味がある
- 四方紅：赤い縁取りが天地四方を守り、一年の繁栄を願う
- 裏白：古い葉と新しい葉と一緒に成長するシダの葉の特徴から末永い繁栄を表す。
- 三宝：尊い相手に物を差し上げる時に使う。神事に使われる台。

食べてこそ鏡餅

歴史をひもといてみると、そもそも鏡餅とは神様と人を仲介するものであり、1年間の幸せを願う「晴れの日」に神前に捧げた餅をみんなで分け合って食べることで、神様からの祝福を受けようという信仰・文化の名残りです。

鏡餅の起源は、はっきりとした記録はありませんが、元禄年間のものといわれる書に、丸餅と角餅を重ねた絵が残されており、この頃ではないかといわれています。

鏡開きは、旧年の無事を神様に感謝しながら、神様に供えた鏡餅をお下がりとしていただく儀式です。餅を食べる者には、力を授けられるといわれています。ももとは武家の間で行なわれていた習慣でしたが、その後、縁起を大切にする商人の間に広がり、一般化したといわれています。

つまり、飾るだけでなく食べてこそ、鏡餅の意味があるのです。

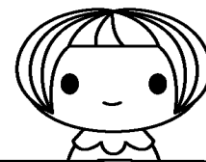
供えた餅を下げる日は、各地方によって違いがありますが、現在は1月11日が一般的になっています。

鏡開きの日には、鏡餅を割り、雑煮やおしるこなどを作って食べますね。

家族で食べて、一家一族の無病息災を願うと同時に食文化を伝えていきましょう。

おとなの ぽんぽんニュース

2024.1



食の計は元旦にあり

年中行事を通して子供たちに伝えていきたい行事食。特に古来より日本に伝わる祝い事と食べ物との関係についてそのいわれや内容を伝承していく事は先人たちの生活に秘められた知恵や工夫を知る事になります。元旦を行事食に興味や関心をよせ、食に託された心を学んでいくスタートにしてみてもいいのではないでしょうか。

食のことわざ

「意見と餅はつくほど練れる」

（いけんともちはつくほどねれる）

餅は、つけはつくほど練れて粘りのあるおいしい餅になる。他人の意見も、つき従うようにすればするほど、人間が練れて円満になるといふたとえ。

「搗く」と「付き従う」をかけた語呂（ごろ）合わせ。



名阪食品株式会社

<http://www.meihan-shokuhin.co.jp/>

〒330-0803 埼玉県さいたま市大宮区高鼻町1-25-1

Tel 048-650-6682 Fax 048-650-6683